

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 <a href="http://www.nsg.co.jp">http://www.nsg.co.jp</a>
会計監査人	新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛をお願いいたします。

証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

### 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~999株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と併せて1単元(1,000株)に達するまでの株式を買い増すこと)をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社  
証券代行部

電話ご照会先 ☎ 0120-782-031(フリーダイヤル)

## 会社概要 (2013年9月30日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) TEL: 03-5443-9500
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	27,013人
資本金	116,449百万円
上場証券取引所	東京(証券コード:5202)
お問い合わせ	<a href="http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us">http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us</a>

### ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、さまざまな情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<http://www.nsg.co.jp/>



# 第148期 中間報告書

日本板硝子株式会社  
2013年4月1日 ~ 2013年9月30日

「ガラス技術で世界に変革を」

証券コード: 5202

## ごあいさつ

平素はご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当期中間期における当社の主要な建築用ガラス市場および自動車用ガラス市場は、おおむね想定どおりの水準で推移しました。これらの市場は、欧州地域では低調に推移しましたが、前期において回復の兆しを見せていた他の地域では引き続き改善傾向を示しました。高機能ガラス市場は、製品により違いが見られ、堅調軟調両様の需要環境でした。

当社グループは、リストラクチャリング施策や生産性改善施策の実施により、収益性回復の早期実現を目指してまいります。



代表執行役社長兼 CEO  
吉川 恵治

建築用ガラス事業の業績は、主にリストラクチャリング施策の効果により、前年同期と比較して大幅に改善しました。売上高は、円安による為替換算の影響により増加しました。

自動車用ガラス事業の売上高は、主として円安による為替換算の影響により、前年同期と比較して増加しています。市場環境は引き続き厳しく、特に欧州の市場において顕著となっています。

高機能ガラス事業の売上高は、前年同期並みとなりました。営業利益は前年同期よりわずかに減少しましたが、なお高い利益率を維持しています。

当社は、これまで各地域および各事業分野で実施してきたリストラクチャリング施策および生産性改善施策による効果をさらに享受し、また、新しい高付加価値製品を立ち上げていくことにより、収益性を向上させてまいります。

当社は、持続可能な事業業績をベースにして、配当の支払いを確保することを利益配分の基本方針としておりますが、当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら、2013年5月16日に公表しました「平成25年3月期決算

短信」における配当予想のとおり、実施を見送ることとさせていただきます。当社は、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、当社グループの業績が十分に改善した段階で配当の実施を再開することを考えております。

当社グループでは、「ガラス技術で世界に変革を」を合言葉に、サステナビリティの推進に積極的に取り組んでおり、今後とも革新的な高性能ガラスの生産を通じて、生活水準の向上、人々の安全と健康、省エネ・創エネに貢献し、安全かつ企業倫理に沿った事業活動を行ってまいります。

株主の皆様には、引き続き当社グループへのご理解とご支援をお願い申し上げます。

2013年12月5日

日本板硝子株式会社  
代表執行役社長兼 CEO

吉川 恵治

## 連結業績ハイライト

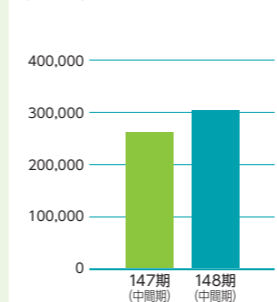
### 連結損益計算書(要旨)

	第148期 (中間期) (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	第147期 (中間期) (2012年4月1日～ 2012年9月30日)	第147期 (2013年3月期) (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
売上高(百万円)	302,162	260,678	521,346
個別開示項目前営業利益(△は損失)(百万円)	4,949	△ 1,032	1,946
税引前四半期(当期)損失(百万円)	△ 10,059	△ 18,680	△ 31,096
四半期(当期)損失(百万円)	△ 10,530	△ 17,316	△ 33,455
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)損失(百万円)	△ 11,054	△ 17,695	△ 34,324
基本的1株当たり四半期(当期)損失(円)	△ 12.25	△ 19.61	△ 38.04

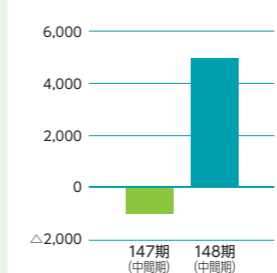
### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第148期 (中間期) (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	第147期 (中間期) (2012年4月1日～ 2012年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,770	△ 2,617
投資活動によるキャッシュ・フロー (フリー・キャッシュ・フロー)	△ 5,008	△ 14,914
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,878	34,742
現金および現金同等物の四半期末残高	53,507	40,647

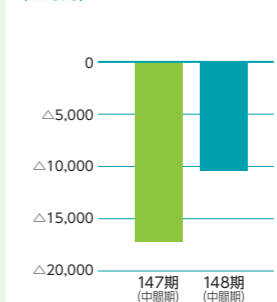
### 売上高 (百万円)



### 個別開示項目前 営業利益(△は損失) (百万円)



### 四半期損失 (百万円)



### 連結貸借対照表(要旨)

	第148期 (中間期) (2013年9月30日)	第147期 (2013年3月期) (2013年3月31日)
非流動資産	615,887	591,360
流動資産	279,595	294,076
資産合計	895,482	885,436
負債合計	732,037	729,983
資本合計	163,445	155,453
負債および資本合計	895,482	885,436

### 事業別連結売上高構成比



● 建築用ガラス 欧州	16%
● 建築用ガラス 日本	12%
● 建築用ガラス 北米	4%
● 建築用ガラス その他地域	8%
● 自動車用ガラス 欧州	23%
● 自動車用ガラス 日本	8%
● 自動車用ガラス 北米	12%
● 自動車用ガラス その他地域	7%
● 高機能ガラス	10%

注：第147期および第148期の連結業績は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成されています。第147期(中間期)および第147期(2013年3月期)については、従業員給付に関するIFRS(IAS第19号)の改訂の適用に伴い、当該改訂の適用を反映した遡及修正後の数値を記載しています。

## トピックス

### Topic 1 七つ星in九州の大型窓ガラスに採用

10月15日より、豪華寝台列車クルーズトレイン七つ星in九州の運行が開始されました。当社のガラスが、客車の最前列車と最後尾車に採用されています。

採用されたガラスは、縦およそ150cm横およそ230cmの超大型複層ガラスで、鉄道車両用複層ガラスとしては日本最大の大きさとなります。複層ガラスとすることで結露が抑制され、また、ガラスの色も透明色仕様となっているため、最後尾車となるデラックススイート/ラウンジカーでは、超大型の車窓から、自然豊かな九州各地のパノラミックな景色をお楽しみいただけます。さらに、ガラスに使用されている中間膜により紫外線を99%以上カット(当社試験データより)し、客車の快適な空間づくりにも貢献しています。



写真提供：九州旅客鉄道株式会社

### Topic 2 高性能ガラスの生産能力を増強

高性能ガラスに対する需要の高まりを受け、当社グループは建築用ガラス分野および自動車用ガラス分野において生産能力の増強を決定しました。

■ **建築用ガラス分野**:高断熱アルゴンガス封入複層ガラスの生産能力を約5割増強しました。近年、新築住宅を中心に複層ガラスの普及が進んでいます。高断熱アルゴンガス封入複層ガラスとは、2枚のガラスの間(中空層)に、普通の空気に比べ熱伝導率が低い不活性ガスであるアルゴンガスを封入することで、採光性を損なうことなく、高い断熱性能を持たせた複層ガラスです。ハウスメーカー各社でも高断熱アルゴンガス封入複層ガラスの採用・標準化の動きが急速に高まっています。

■ **自動車用ガラス分野**:紫外線(UV)を約99%\*カットするSuper UV cutガラスの国内生産能力を、従来の2倍に増強することとしました。Super UV cutガラスとは、紫外線を約90%カットする強化ガラスの車内面に、さらに紫外線を吸収する膜を成膜し、紫外線を約99%カットすることを可能にした製品です。自動車のフロントドアに使用され、運転席や助手席の乗員の日焼けを防止し、快適なドライビング環境を提供します。日本国内市場向けの車種に採用が拡大しています。

\*当社測定値。ISO9050基準。



高断熱アルゴンガス封入複層ガラスイメージ図

## 特集 NSGグループの最先端技術

### オリジナル技術が生み出した粉体商品「ガラスフレーク®」

当社グループの特殊ガラス繊維は、軽量、高強度、不燃性、非導電性、耐薬品性に優れ、さまざまな用途におけるオンリーワン、ナンバーワンとして、世界で活躍しています。

ガラスフレーク®は、平均厚さが2~5 $\mu$ m、粒径が10~4,000 $\mu$ mの鱗片状のガラスです。当社は、独自に開発した製法により、唯一の国産フレーク状ガラスメーカーとしてその製造販売をしています。ガラスフレーク®に使われるガラスにはCガラスとEガラスの2種類のガラス組成があります。

Cガラスはアルカリ成分を含んでおり、高い耐酸性を有するため、耐食材料として塗料、ライニング分野で使用されます。例えば、海上での過酷な環境から長期的に設備を守るため、洋上の風力発電装置の耐食材料として塗料やライニングに使用されており、今後拡大が見込まれる再生可能エネルギーの分野にも当社製品が貢献しています。

Eガラスのフレークは、熱可塑性樹脂の精密部品において、その防止、寸法精度の向上に大きな効果を発揮し、金属代替などで部品の小型、軽量化に貢献しています。さらに、新開発の成形技術による、サブミクロンタイプのガラスフレーク®の開発にも成功し、より精密、高精細な分野にも用途を広げています。

また、当社は、ガラスフレーク®成形技術と表面処理技術を組み合わせ、フレーク状のガラスを基材とする光輝性無機顔料メタシャイン®を世界で初めて開発しました。メタシャイン®は、フレーク状ガラスの表面に金属や金属酸化物をコーティングすることで美しい光沢を実現し、自動車塗料や、化粧品、産業分野など、幅広い用途に使用されています。

当社は、ガラスメーカーとして培った独自のノウハウを活かし、ガラス基材から顔料まで一貫した研究・生産体制を敷いています。世界初のポロン(ホウ素)フリー、低重金属の新組成のガラス(TAガラス)を開発するなど、環境面にも大きく貢献しています。



用途が広がるガラスフレーク®



美しい光沢を実現するメタシャイン®

## 役員 (2013年10月31日現在)

当社は、2008年6月27日付で委員会設置会社に移行しました。

### 取締役

社外取締役	朝香聖一
社外取締役	ジョージ・オルコット
社外取締役	藤田純孝
社外取締役	小宮弘
取締役	吉川恵治
取締役	クレメンス・ミラー
取締役	マーク・ライオンズ
取締役	諸岡賢一

### 指名委員会

ジョージ・オルコット (委員長)
藤田純孝
朝香聖一
小宮弘
吉川恵治
諸岡賢一

### 監査委員会

藤田純孝 (委員長)
ジョージ・オルコット
朝香聖一
小宮弘

### 報酬委員会

小宮弘 (委員長)
ジョージ・オルコット
藤田純孝
朝香聖一
吉川恵治
諸岡賢一

### 執行役

代表執行役社長兼CEO	吉川恵治
代表執行役副社長兼COO	クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼CFO	マーク・ライオンズ
執行役副社長	諸岡賢一

### 執行役員

上席執行役員	トニー・フラッジリー
上席執行役員	藤木一郎
上席執行役員	日吉孝一
上席執行役員	今西実
上席執行役員	フィル・ミリチャップ
上席執行役員	森重樹
上席執行役員	トム・レイ
上席執行役員	フィル・ラムジー
上席執行役員	ヨハン・セトルマイヤー
上席執行役員	ミレナ・スタニッチ
上席執行役員	フィル・ウィルキンソン

執行役員	藤井一光
執行役員	藤巻和彦
執行役員	梯慶太
執行役員	加藤雅也
執行役員	岸本浩朗
執行役員	小林史朗
執行役員	前田浩一
執行役員	前原耕二
執行役員	ポール・レーベンスクロフト
執行役員	イアン・スミス
執行役員	土江伸二

## 株式情報

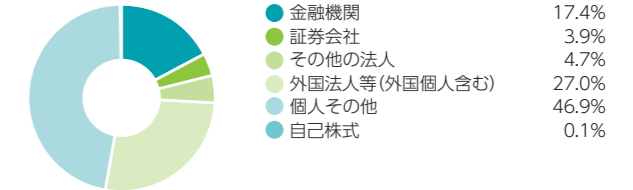
### 株式の状況 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,775,000,000株
発行済株式の総数	903,550,999株
株主数	81,973名

### 大株主 (2013年9月30日現在)

株主名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	27,878,000	3.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	22,903,000	2.53
Credit Suisse Securities (Europe) Limited PB Omnibus Client Account	17,336,040	1.92
野村信託銀行株式会社 (投信口)	14,203,000	1.57
CBNY DFA Intl Small Cap Value Portfolio	12,492,408	1.38
State Street Client Omnibus Account OM44	11,077,600	1.23
トヨタ自動車株式会社	9,610,650	1.06
住友生命保険相互会社	9,148,000	1.01
Raiffeisen Bank International AG Client A/C	8,651,239	0.96
Goldman Sachs International	8,502,783	0.94

### 所有者別の持株比率 (2013年9月30日現在)



### 株価と出来高の推移

